

PTA 会報

No.49 2008.11



嵩山

松江東高

目次

○ P T A会長挨拶	1
○ 校長挨拶	2
○ 部活動で得たもの	3
○ 部活動報告	16
○ 新任教職員自己紹介	18
○ P T A会務報告	21
○ 編集後記	22





「コミュニケーション能力」

PTA会長 櫻井 誠己

PTA会長を仰せつかってほぼ八か月が経過しました。早いもので残りの任期も、四か月余りとなりました。あと四か月で何がやれるのかと思っ
ているところです。PTAの年間の行事は進行して
いますが、これだけでPTA会長の役割を果た
していることになるのか、いささか不安な気持ち
です。もっと積極的に何かをやるのがPTAの
姿なのかどうかはわかりませんが、あと半年余り
の間、お役にたてるPTAを目指すよう努力した
と思います。

高校生活の三年間、入学から卒業までが、あつ
という間に過ぎていく様に感じます。親から見れ
ば大変短い三年間であつても、子供にとっては、
勉強したり、部活をしたり、長く色々あつた三年
間なのかもしれません。

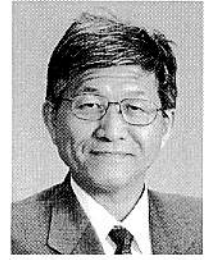
小学校、中学校、高等学校と学校教育を受け、
その次のステップへと進んでいくわけですが、高
等学校が学校教育としての一つの区切りだと思ひ
ます。子供から成人までの成長過程で、学校教育
で学ぶことが、その人の将来を大きく左右するこ
とは言うまでもありません。この時期をいかに充

実し、納得のいく過ごし方をしたかは、人それぞ
れでなかなか一言では言えないと思います。また、
後になってみないと判断できにくいところであり
ます。

学校教育は、人間形成の基礎を作る時期に当た
ります。心身ともに成長していくために、学校教
育があると思います。その上に、学力をそれぞれ
に合った形でどう伸ばしていくかが求められてく
ると考えます。

PTA会長という立場からすれば、いささか私
事になりますが、仕事の関係で考えています教育
について述べてみたいと思います。会社経営とい
う立場で、社内教育は非常に重要なことになつて
きます。会社経営というのは、基本的に、トップ
の考え方によってなされていきます。組織という
ものは、全て同様な傾向がありますが、会社は特
にその傾向が強くなっています。会社の方針、考
え方を社員が共有して、目標を達成しなければな
りません。そのためには、会社内で様々な教育を
行う必要があります。これらが、一般的に言われ
る社内教育であります。最近、特に顕著になつ

てきている傾向があります。今まで当然だと考え
られていた社会常識がなくなっていることです。
会社というのは、さまざまな業種があり一様では
ありませんが、そのほとんどが上司と部下、そし
て、お客様との関係で成り立っています。フラッ
トで自発的なボトムアップ型への移行も必要となっ
ていますが、基本はトップから流れていくのが原
則だと考えます。また、お客様との関係は、お客
様が最優先であり、その為に全ての仕事を考えて
いかなければなりません。ここで求められるのは、
人と人との関係をどの様にやっていくかにありま
す。挨拶の仕方、言葉づかい、服装などの所謂社
会生活そのものの事柄に入っていきます。これら
のことから教育していかねば一人前とはなりません。
現在、最も難しい教育は、このところにある
と思います。専門知識や専門技術は、時間をか
ければ習得できますが、長い間に身に付いた生活
習慣はなかなか変わりませんし、新たに身に付け
るのも難しいものです。言葉遣いでも、敬語が使
えない、上司、お客様との会話がなかなかできな
い新社会人がきわめて多くなっていると思います。
一言で言えば、コミュニケーション能力が身に付
いているかどうかですが、これが一朝一夕には解
決できない問題になっているように思います。
今、学校教育でも、家庭教育でも、最も求めら
れているのは、この様な基本的部分とその背景に
ある価値観を涵養することではないかと思ひます。



守唄（もりうた）

校長 中村清志

もう何年も前のことです。遠隔地に転動しましたので、早朝に家を出ることがありました。NHKの「ラジオ深夜便」の四時台は「このころの時代」を放送します。車で聴きながら国道九号線を走ることが時々ありました。あるときこんな年賀状が読まれました。九州のある島に住む母親が中学三年生の息子に宛てた年賀状です。

お父さんがお前に島の高校に行ってくれと言った時から、お前はお父さんにもお母さんにも口をきいてくれません。お父さんも本当はお前を長崎の高校に行かせたいのですよ。でも、貧しいうちの今の状態ではそれは叶いません。それは、お前もわかってはいるはずですが、でも、頭ではわかってはいるけれど、心の部分ではどうしようもないのでしょう。そのことは、お父さんにもお母さんにも痛いほどわかります。おまえがもう一か月も黙ったままでいることは、口には出しませんが、お父さんにはとてもこたえています。

お前が赤ん坊の時、お母さんは何度も何度も、泣きやまないお前に子守歌を歌ってあげました。でも、大きくなったお前が、どんなに悲しくて、

どんなに悔しくて、どんなに辛くて泣いていても、お母さんにはもうお前に歌ってあげる子守歌がありません。どうか、お母さんからのお願いです。この年賀状を読んだら、お父さんに「あけましておめでとう」と言ってくれませんか。それが、子守歌を歌えなくなってしまう親への親守歌だと思ってくれませんか。

聴きながら、涙が止まりませんでした。守唄には、子守唄もあれば親守唄もあり、中島みゆきは「心守歌」という歌を歌っています。

遙かな愛（いと）しいあの人に
悩みのない寝息があればいい

風よ 心のかかるとに翼をつけて

どんな彼方へも

ひと晩で行って戻れ

親が子を思い、子が親を気づかい、そうして家族は時にいがみ合い、時には憎み合いもしながら、最後のところは心寄せ合って生きています。

今年の全国高等学校PTA連合会大会愛知大会は名古屋市で開催されました。テーマの「絆」、副テーマの「愛と知で結び合う心と心」にふさわ

しい大会でした。大会二日目、映画監督で俳優の奥田瑛二さんが講演をされました。その中にこんな言葉がありました。

家族は世界で一番せつない仲間です。

私には大学三年生の娘と高校三年生の娘がいます。学校には七〇〇人以上の子どもがいます。親としての思い、教員としての思い、区別がつくようでなかなかつかない、そういうあいまいさの中で、この文章を書いています。

重松 清の『卒業』（新潮社）のなかに、「まゆみのマーチ」という短編が入っています。小学校に行かなくなった娘に、母親が歌って聴かせた「まゆみのマーチ」の話です。兄の息子が学校に行かなくなっているのを知ったとき、大人になつたまゆみが言います。

うちが「まゆみのマーチ」を教えてあげたら、おにちゃんも亮ちゃんに歌うてあげてくれるん？三ヶ月かかったおかげで、うち、一生ぶんの「好き」をお母ちゃんから貰うたけん。シャワーみたいに、好き好き好き好き好き……毎日毎日、言うてくれたやもん。うち、幸せ者やと思う。世界中で、こんなに自分の親から「好き」を言うてもろうた子、絶対におらんもん。うち、世界一幸せな女の子なんよ。

「まゆみのマーチ」はテレビアニメ「悟空の大冒険」のテーマソングの替え歌でした。

まゆみが好き、好き、好き、好き、まゆみが好き、好っき……。

母親は学校に行かない子のために繰り返し繰り返し返して歌って聴かせたのでした。私の上の娘も小学校の入学式の明るる日から、学校に行くのを嫌がりました。幸い、この子には、妻の祖母が寄り添ってくれました。祖母が歌う我が家の子どものだけの子守歌によって、子どもたちだけでなく、私たち夫婦もどれほど癒されたことかわかりません。

明里ちゃんはい〜い子だ、い〜い子だなあ〜。
萌恵ちゃんはい〜い子だ、い〜い子だなあ〜。

飽きることなく繰り返し返される子守歌に包まれて、私の娘たちは育ちました。その家庭その家族で、おのおのみんな違う子守歌をお持ちのはずです。文字通り歌であったり、励ましの言葉であったり、時には厳しい叱責であったりもします。言葉もなぐただただ抱きしめる時の我が子へのいとおしさや無言で見守るしかない親の辛さも、それもやっぱり、声なき声の切ない子守歌です。子守歌を歌ってもらった子どもたちだけが、親守歌を歌うことができるのだと思います。

東大教授の上野千鶴子さんが『ミッドナイト・コール』の中で言っています。「人間は自分が経験したことの感情は人には伝えられない。」お互いがお互いに守歌を歌う「せつない仲間」でありたいものです。家庭では家庭の守歌が歌われ、学校では学校の守歌が歌われる、家庭も学校もそういう場でありたいと思います。家族が「世界で一番せつない仲間」なら、学校は「世界で二番目にせつない仲間」でありたいと、心にしみて思います。

特集

部活動で得たもの

〜親と子の視点から〜

部活で得たもの

男子バレーボール部 野津良佑

男子バレー部は人数が少なく、また、今までの大会でも良い結果を残していませんでした。しかし、様々な逆風の中で、最後の総体では一勝し、男子バレー部としての快挙を成し遂げる事が出来た事は本当に嬉しい事であり、仲間とその喜びを共有出来た事を誇りに思っています。その勝利までの道程は決して楽な事ばかりではなく、寧ろ苦しい事の方が多かったように思います。それでも最後まで続けられたのは、部員とマネージャーの存在が大きかったのではないかと思います。他人との関係が、まるで大黒柱のように僕を支えていました。僕の場合は、「部活で得たもの」と言うよりも「部活を通して学んだこと」という表現が合っていると思います。僕は、部活を通して友情と、感情を共有出来ることの素晴らしさを学びました。人との繋がりには、僕の価値観に大きな影響を及ぼし、切磋琢磨する事の素晴らしさを教えてくれました。それは、「災い転じて福と為す」つまり、人数の少なさという災いが転じてもたらされた幸福だと思っています。逆に、一概には言えませんが、人数の多い部活ではそれに気付く事が難し

いのかもしれません。
もし、現在帰宅部の人がこの文章を読んだならば、是非、男子バレー部に入部してほしいと思っています。

いいことあるさ

保護者 野津 勇

三年・二年でちょうど六人。他の部活と掛け持ちの生徒もいました。練習も練習試合もままならず、廃部の話まで持ち上がっていました。そんな暗い話題の多かった部活動生活。なんとか最後は良い思いをさせたい。喜ぶ姿を見たい。そんな心が報われたのが最後の島根県高校総体での江津工業戦でした。たかが一勝、されど一勝。これまで陽のあたる事のなかった男子バレーボール部にちよつと陽が差した瞬間でした。人生こうでないとね。明日の二回戦も応援に行こう。浜田市まで車で往復した二日間が、心地よいものとなりました。



仲間

女子バレーボール部 金津 敬子

私はバレー部で最高の仲間たちと楽しいことや辛いことどんなこともみんなで乗り越え、バレーができたことを誇りに思います。私自身、部活を辞めようとか、チームをまとめることができず悩んだこともたくさんありました。でも、そんな時支えてくれるのは仲間たちでした。仲間がいたからこそ、ここまでやってくることができました。最後まで納得のいく結果は出せなかったけど、人と人との繋がり、人として生きていくために大切なことなど多くのことを学びました。この充実した二年間と大好きな仲間たちは大切な宝物です。十九人の仲間たち、指導して下さった先生方、応援して下さい下さった方々、保護者の皆さんに感謝しています。本当にありがとうございます。

感謝

保護者 金津 悦子

東高に入学して、勉強の合間に楽しくバレーをしようなんて甘い考えで入部したものの、練習の厳しさ、大会や遠征の多さに戸惑い、勉強と部活の両立に悩んでいたことがついこの間のようです。でも、その部活動を通して、どんなに辛いことから逃げない強い心ができ、励まし合えるチームメイトに出会えたことは、これから立ち向かっていく受験、そして今後の人生に必ず役立つと信じています。

そして、私たち保護者もあなた達ののおかげで色々な人達と出会い、あなた達から素敵なお話を沢山もらいました。本当にありがとうございます。

バスケットを通して得たもの

男子バスケットボール部 玉川 康平

私は部活動を通して、「信頼」という言葉の大切さを学んだ。

男子バスケット部は部員が四十五名と、他の部に比べ非常に多い。主将を務めるにあたり、部員一人ひとりと信頼関係を少しでも築くために、よくコミュニケーションをとることを心掛けた。よく会話をするので、少しでも高いモチベーションでチームとして活動することができていたのではないかと思う。

高校三年間、自分が好きなバスケットをすることができたのも、保護者の方、指導して下さった先生方、そしてチームメイトがいてくれたからだと思う。支えて下さった方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからの進路でもたくさんさんの「信頼」と出会えるように歩んでいきたい。

飛躍

保護者 玉川 和子

小学校の時からバスケットが大好きなあなたは、常に目標を掲げ、今自分のやるべき事は何か、そして人を思いやる心を忘れず、どんな困難にも最後まで諦めない選手でしたね。私は心から大きな

拍手を贈ります。

部活動を最後までやり遂げたことは、将来に於いての大きな第一歩となり、ここで学んだ事は生涯の財産になる事でしょう。

改めて、部活動は「人間育成」にとっても重要だと再確認しています。末尾になりましたが、お世話になりました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

仲間

女子バスケットボール部 安木 理子

三年前、私はバスケットでインターハイに行くという目標を持って東高に入学しました。中学ではくやしい結果に終わってしまったので、高校では必ずインターハイに行つてやると思っていたからです。入学してからは、朝から晩までバスケットの毎日が始まりました。練習は本當にきつくて何回も抜けようと思いましたが、周りを見ると、みんなもとてもきつそうなのに、それでも走っていて声を出していて、「私も頑張らないと！」と何度も励まされました。大会では、上手いかわいさもありませんでしたが、チームの持ち味であるスピードが生かせた時は、チーム全体が盛り上がり、言葉で言い表せないほどの達成感がありました。結果として、インターハイの夢は達成できませんでした。でも、私は東高に来て、このメンバーでバスケットができて本當に楽しかったです。仲間の支えられたこの部活の思い出はこれからもずっと大切にしていきたいと思っています。

振り返れば

保護者 安 木 和 代

七月中旬、総体の慰労会と称して保護者会を開催いたしました。三年保護者として、子どもと共に参加する最後の会でもありました。あいさつをしていただいた保護者の方から「長年、洗濯をしてきたが部活が終わってその洗濯物が随分減ってしまった。その洗濯物はとても臭かったけれど……」とユーモアを交えた話がありました。その言葉には、今まで、一生懸命応援してきた思いと終わつた寂しさを感じられ、胸がキュンとなりました。

振り返れば、小学四年生ではじめてバスケットボール。九年間、とても楽しませてもらいました。いろいろな場所へ行き、たくさんの人に出会い、応援することがいつの間にか自分の楽しみになっていました。本当に子どものおかげだと思えます。これからは、この出会いを大切に、自分自身の楽しみを作っていきたいと思えます。総体の後、いろいろな想いがこみ上げてきましたが、保護者会を開催し、気持ちの一区切りができたように思います。最後に、たくさんのお楽しみをくれた娘に……感謝！

部活で得たもの

男子テニス部 櫻 井 基 晴

部活に入って、毎日練習に追われる日々。中学のころに比べ、勉強のことが多くなり、忙しくなりました。そんな中、どんなに疲れてい

ても練習はあります。休んでしまいたいと思つた日がありましたが、しかし、他の部員も同じように頑張つていてと思うと自分も頑張ろうという気持ちが湧いてきます。仲間がいたから最後までやり抜くことができたと思うのです。

大会での結果はいろいろあります。けれども、毎日練習に出て、最後まで部活を続けてきたことが大きな力になりました。これから何か忙しくて辞めたくなくなることがあるかもしれませんが、このことを励みに頑張っていけます。

部活で得たもの

保護者 櫻 井 紀 子

高校生になると、試合を観に行つてもいいのだろうか……に始まり、普段の部活がどうであったのかなど、あまり話してはくれません。それでも、部活を終えられ受験勉強に向かわれた先輩の話。合唱部と掛け持ちで頑張つている同級生のこと。オフの日も自主練を続けていた下級生の事などを、切れ切れの話をつないで思い出します。

折しも北京オリンピックの年。テレビで、先刻まで勝敗をかけて闘つていた相手と、又、チームメイトと、互いに称え合つている姿を見るにつけ、「きっと息子たちも、テニスを通して良い時を過ごしたに違いない。」と、時折テニスの話をする息子を見て思うのです。ご指導いただきました先生方に、御礼申し上げます。

忘れられない一年間

女子テニス部 岡 本 理 奈

先輩方に任せてもらい、私が約一年間、部を引っ張つていくのには、たくさん大変なことがありました。その度に本当に先輩はすくくて、自分がどれだけ先輩に支えられ、頼り切つていたのかということを感じました。

キャプテンという仕事を通して、みんながさまざまな思いを抱えながら毎日頑張っていること、人に支えられているからこそ自分が頑張ることができること、人への感謝や思いやりを持つことの大切さを学びました。一年間という短い期間でしたが、とてもたくさんのお話を聞き、濃密なものでした。この一年間は、私がこれから生きていく中で忘れられない貴重な経験となりました。なによりも、最後まで私についてきてくれ、支えてくれた部員みんなにとても感謝しています。

何物にも代えられない経験

保護者 岡 本 美代子

娘が東高校に入学したのがつい昨日のように思つていましたが、もうすぐ卒業の時を迎えようとしています。その間、諸先生をはじめ多くの生徒の皆さんにとっても良くしていただき本当にありがとうございます。

先輩の後ろを引き継ぎ少人数でがんばつていた娘達ですが、成績的には満足できるものとならなかったようですが、少しでも先輩達に近づきたいと自

分達なりに悩み、苦勞した一年間だったようです。この三年間の部活動を通じ、先輩達の活動と想いを紡ぎ、後輩の皆さんに引き継ぐという大変貴重な経験をさせていただきましたことを深く感謝申し上げます。

部活で得た自信

ソフトテニス部 加藤 沙 耶

東高のテニスコートに私の高校生活のほとんど全てが詰まっています。辛いことや苦しいこと、不安や緊張、涙や笑顔。部員全員の想いが詰まったあのコートが、私の自慢の場所です。

キャプテンという大役は、簡単なものではありませんでした。何度も投げ出しなくなりました。「どんなに辛くても、踏ん張って誰よりも頑張らなければいけない。それがキャプテンというものだ。」という顧問の先生の言葉と、ソフトテニス部員みんなの支えのおかげで、私は大きな仕事を最後までやり遂げることができました。この経験が部活を終えた今となっては自信に変わりました。この自信は、私のこれからの人生にたくさん勇気をくれると思います。最後に、私はこのような素晴らしい経験をさせてもらったことにも感謝しています。



思いやり

保護者 加藤 隆 之

私は仕事の都合で単身生活を送っています。そのため、高校の三年間、娘の試合を実際に見ることはありませんでした。

普段はメールや電話のやりとりで「部活」の様子を知るしかありませんでしたが、一つ特に印象に残っていることがあります。

三年の県総体の予選前だったと思いますが、大会に向けて選手全員に渡すために「LAUGH」(笑う)の文字を縫いこんだお守りを作っているんだと娘から聞きました。それを聞いた時、「結果はどうあれ、笑顔を絶やさず、前向きに頑張ろう」という、彼女のキャプテンとしての「思い」を感じ、嬉しく思うと同時に、選手一人一人へもその「思い」は伝わり、受けとめてもらえると確信することができました。

最後になりますが、彼女が三年間、テニスを通じて「部活で得たもの」それは、人への「思いやり」「優しさ」を持つことで、社会、人と正面から向き合い、人生を歩んでいける、これからの人生のヒントをつかめたことだと思います。

部活で得たもの

サッカー部 広江 翔 平

自分が東高サッカー部で学んだことは、文章では説明できません。これは、今まで一緒に戦ってきた選手、監督、マネージャーだけが分かるもの

だと思っています。自分が言えるのは、県優勝というこの目標に向かって部員一丸となって挑んだ二年間と言う時間が、部活から得たものかどうかです。これは自分にとって、高校生活で最高の思い出です。

東高は、勉強もしながら部活にも打ち込める最高の環境が整っています。そんな中でサッカーをできたことに本当に感謝し、また幸せに思っています。東高で得たものを糧に大学ではさらに上を目指して頑張りたいと思います。

サッカーを通して

保護者 広江 俊 二

「ピッピッピー。」終了を告げる笛、この瞬間全国総体への夢は幕を閉じました。整列して挨拶をした後のわが子は、ユニフォームで涙を何度もぬぐい、ベンチに座り込み微動だにしませんでした。かわいそうではありましたが、周りをはばかりことなく泣ける姿に、サッカーに全力をかけてきた証を感じ、うれしくもありました。キャプテンの重責をどれだけ果たせたかは分かりませんが、「サッカーを学ぶ」と共に「サッカーで学ぶ」ということが出来たと確信しています。肩をたたいてくれたチームメイトや監督、声をかけてくださった校長先生の温かい思いやりを生涯忘れないと思います。彼の挑戦は今後も続きます。東高サッカー部で得たひとつひとつの貴重な経験をエネルギーにして。

たからもの

女子バドミントン部 山本 真奈美

私は、東高でバドミントン部に入学して本当にバドミントンが大好きになりました。今こう言えるのも一緒にやってきた仲間のみんなが大好きだったからだと思っています。あのメンバーだからこそ毎日楽しく、きつい練習にも耐え、辛いことも乗り越えてくれました。大好きなことをおもしろきり一生懸命やれたことは自分のなかで最高のできごとだったと思います。そして、辛いことはみんなで愚痴を言い合ったり、大泣きしたり、あほなことをして笑ったり、部活のことを語ったり、バドミントン部の仲間とすごした時間がなにより最高でした。私が部活で得たものは大好きだと思えるスポーツと大切な友達と大切な思い出です。

感謝の毎日でした

保護者 山本 尚登

高校生活、勉学と部活と続けていけるかと心配の毎日でした。負けず嫌いな子でしたので親が心配することもなく、三年間過ごしてきたので、よく頑張ったとおもいます。一年の時は専門の先生でしたが、二年次には文化系の先生で、又、キャプテンになり、バドミントン部の人が付いてきてくれるのかと本人も親も心配でした。でも、同期の人も後輩の人達も皆一つになって子供に付いてきてくれて本当に感謝しています。お世話になった皆様には、本当に感謝しております。

親友

アーチェリー部 信木 勇治

東高に入学し、アーチェリー部に入学してから引退するまでの約二年半は、本当にあつという間でした。しかし、この短い期間にも沢山の思い出があります。

振り返ってみると、確かに多くの得たものがあります。しかし、たくさん得たものの中で最も大きいのは、喜びも楽しさも苦労、悔しさも共にしてきた「友達」です。「友達」は、私が部活を辞めそうになったときや部長になって苦労しているとき、そして中国大会やインターハイという大舞台を前に不安になっているときいつも私を支えてくれたかけがえのない存在です。短い間でしたが、私を支えてくれて本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

精神力と集中力の鍛練

保護者 信木 賢治

子供のころの勇治は、非常に落ち着きのない子でした。そのため部活動は、小学校ではサッカーをし、中学校ではテニスをしてきていたので、高校生になってアーチェリーをすると言いだしたときには、男の子なのでもっと体を動かすスポーツをして欲しいと少し残念な思いもありました。

しかし、アーチェリーを始めてから物事に対する集中力が増したように思います。私も訓練でけん銃を撃ちますが、離れた小さな

的に当てる為には、心を落ち着かせて射的する必要があります。こうした精神力と集中力の鍛練にはアーチェリーが非常に有効であったのだと感じました。

三年間アーチェリーを続けてきてくれたお陰で大きく成長してくれたなと思います。

部活を通して学んだこと

男子ハンドボール部 山浦 大樹

僕は部活を通して様々なことを学びました。特に感じたことは、周りの人に支えられていることへの感謝の気持ちです。僕たちの部活は特に人数が少なくいろいろな面で苦労しましたが、顧問の先生をはじめ保護者の方々や外部コーチの人などに本当にお世話になりました。部活を辞めようと思ったことも何回もあったし、楽しくなくなったりしたこともありましたが、周りの人たちから何度も助けられ、最後まで続ける事ができました。自分たちだけでは、絶対に続けてこれられなかったと思います。最後まで部活を続けたことにより、自分が一回りも二回りも成長できたと思います。

部活で得たもの

保護者 山浦 道子

一年生の時、ハンドボールと言うあまり馴染みのないスポーツの試合を観に行きましたが、ルールも解らず、面白くない球技だなあと思いました。二年生になり、試合を観に行く度にルールも少し

ずつ解ってきて、上手になっていくのを見て頼もしく思うと共に、ハンドボールと言うスポーツにも関心が湧いてきました。そして、部員の保護者の方々と一緒に応援して楽しませてもらいました。毎日外で真っ黒になって練習し、勉強との両立？も大変だったと思いますが、二年半余りよく頑張ったと思います。

部活で得た「人とのつながり」

卓球部 高野涼子

総体の一か月前、私の卓球人生の中で最大の試練がふりかかりました。突然打ち方が分からなくなり、ラケットが手から落ちるようになりました。今までの苦労が大きすぎただけにシヨックは大きく、毎日帰っては泣きながら腕を打ちつけ、悔いのない終わり方が想像できず空虚感に満ちた日々でした。

そんな時私を救ってくれたのは、メールで励ましてくれた友達、ひたすら話を聞いてもらった保健室の先生、顧問の持田先生、そして母でした。自分が勝たないといけないと思わずに、他の部員に頼る事も大切だと気付かされ、人に頼る事は逃げる事ではなく、人を信じる事なのだと感じました。

今まで私を支えてくれた部員や数えきれない友達、苦労を共にし、力尽きるまで頑張ってくれたこの右腕に心から感謝しています。あなた達がいなければ今の私はありません。本当にありがとう。

娘の部活動から得たもの

保護者 高野里美

北京オリンピックのアスリート達のドラマに胸を熱くさせられる度に、娘の部活動生活の様々な場面が思い出されました。無念の成績に涙する場面、悲願の勝利の場面、応援席で抱き合う場面……どれもが実体験と重なりました。

この六年間、娘の部活動のおかげで、あちこちの試合に連れて行ってもらいました。オリンピックに負けないほどのたくさんの感動をもらいました。追っかけ仲間もできました。東高チームを、娘を、誇りに思うことができました。

公立の普通高校で部活動を続けることは、選手はもちろん、顧問の先生方にとっても大変なことだと感じました。お世話になった持田先生、遠藤先生、坂根先生に感謝いたします。

僕が学んだこと

陸上競技部 井上立也

僕は、自分の力がどこまで通用するのか、そしてどこまで記録を伸ばせるのかを試すために陸上競技部に入部しました。自分に自信があるからこそ期待をしていました。しかし、学校での自分の立場と島根県という枠での立場とは大きく差がありました。また、努力と結果とがきれいに比例することはありませんでした。

その結果、僕が探し求めていた答えを完全ではないにしろ見つけ出しました。確かに現状は厳し

いけれど、だからといって努力をしないのは自分が選択した上からの逃げであり、ただの怠け者です。努力は崩すものではなく、積み重ねるものであるとよく分かりました。さらに団体戦と個人戦とでは感じるプレッシャーと意識することが違うということも分かりました。振り返ってみると精神が一番鍛えられました。成功した者はみな、すべからく努力していることをこれからの糧にしたいです。

ありがとう

ボート部 林 瑞穂

私が部活で得たもの、それは「たくさんの支えてくれる人たち」です。

土日や朝練にも都合を付けて来てくださった先生方やコーチ、たくさんのアドバイスを下さった他校の先生方や企業の方々、そして先輩方。地方大会はもちろん、全国各地の大会に応援に来てくれた家族。そんな、私を支えてくれるたくさんの人たちのおかげでわたしはボートを続けていくことができました。

そして、苦しいことばかりで何回も部活を辞めようと思いつつ、仲間や応援してくれた友達、仲良くしてくれる全国のボート仲間（兼ライバル）。そんな大好きなみんなと出会えたことも本当に幸せな事だと思っています。

最後に、苦しいことは今以上に増えるけど、どんな時も「感謝の気持ち」と私のまわりには「たくさんの支えてくれる人がいる」ことを忘れずに、これからまた私は四年間ボートを続けていくことに誓います。

林瑞穂の親父です。よろしく！

保護者 林 真樹

私は我が子に、高校生活三年間で、何か「夢中になれること」を見つけ、打ち込んでほしいと思っています。

幸せなことに、ボートに会い、すばらしい仲間にも出会い、とても恵まれた高校生活を送れたと思います。

また、親も、レースの応援などボートを通じて、多くの保護者の皆さんと友達になることができたことに併せ、多くの娘（結菜、知佐、樹里）・息子（瀬尾くん）とも出会い、とても幸せな時間を過ごすことができました。

卒業後、ボート部の娘・息子たちはそれぞれの道を歩んでいくわけですが、次のステップでも、何か「夢中になれること」を見つけ、打ち込んでほしいと願っています。

部活で得たもの

野球部 塩 谷 悠 造

部活動で得たものと言えば、後悔くらいだといヶ月前なら言っていたと思います。でも今改めて考えてみると得たものはあると思います。例えば月並みに部活動で出会った友達。理解しがたい事も数え切れないほどありましたが、助けてもらいました。数え切れないほど。もう今は悔いもほとんど無いけど、練習で疲れた後に部室で話をした事がすごく懐かしい気がします。部活動で過ご

した二年と少しがこれからの自分に大きな力を与えてくれると思います。まだ部活動で得たものはつきりとは分からないけど、僕は野球部の一員になったことに感謝し、誇りに思います。

親として思うこと

保護者 塩 谷 典 之

保護者として、子どもには、野球部に入って出逢った友達をこれからも大切に、野球を通じて学んだこと、お世話になった方々への感謝を忘れずに、これからの人生を歩んでほしいと思います。私にとっても、たくさん保護者の方々の出逢いがあり、一緒に応援できたことに感謝しています。

最後になりましたが、青木先生をはじめ、お世話になった先生方、ありがとうございました。後輩の皆さんの活躍を、東高野球部の健闘を心から祈っております。

運命的な出会いに感謝

剣道部 浜 田 翔 太

僕は、この三年間剣道を続けて本当に良かったと思っています。しかし、三年間の剣道は、決して楽なものではなく、毎日の辛く厳しい稽古や、自分の能力が伸びない事に悩んだり、試合で勝てない事に苦しみました。でも、様々な人に出逢い、支えられ乗り越えることが出来たと思います。松江東校の剣道部の仲間たちとで稽古したこと、そ

して松浦先生から学んだことは、これからの僕の人生に必ずプラスになっていくと思うし、自分を支える力になると思います。

最後になりましたが、一緒に稽古していた剣道部員みんな、顧問の松浦先生、佐々木先生、地域の先生方、支えてくれた家族の皆さん、ありがとうございました。

東高剣道部で得たもの

保護者 浜 田 直 人

部活は、剣道と決めて松江東校に入学しました。中学はソフトテニス部でしたが、スポ少からやってきた剣道がやりたくて、この三年間夢中になってやり通すことができたと思います。この三年間を振り返ると、一年生のころは、とても苦しい日々が続きました。先輩は五人いたのですが、一年生は、自分一人、顧問の先生も剣道はわからないな自分達でなんとか続けてきました。二年生からは、松浦先生の情熱と研究心あふれる指導の元、毎日の猛稽古にも耐え心も技も上達することができました。

今年の県総体の団体戦は、メンバー五人中、三年一人、二年一人、一年三人という苦しい中、強豪相手に勝ち進み三位という好成績を残すことが出来ました。自分達は勝つんだという気迫本当に良かったと思います。

最後に、部活で得たものは、部活を通して運命的に出会えた皆さんです。ありがとうございました。

柔道がくれたもの

柔道部 豊島 創太

僕が、柔道部に入部した時部員は三人でしたが先輩である兄、友達、中学校から指導して下さいました。恩師と柔道を楽しむことが出来ました。後輩が入り、より毎日が充実した日々になりました。

先生は、僕たちに合った練習を考えて下さいました。先生にはとても感謝しています。

毎日が厳しい練習でしたが、その分強くなっていくことを実感できました。

多くの方と関わり、柔道というコミュニケーションの中でこの三年間部活、合同練習、大会を一期一会の気持ちで臨めたと思います。

柔道は、身体と身体のおつきり合いだけだと思っ
ていました。

ですが、その裏で支えてくれる方々への「感謝」
の気持ちを肌で感じました。

本当に柔道に出会えてよかったです。

継続は力なり

保護者 豊島 俊

まず、次男が柔道部を高校三年間続けられたこと
に対し、先生方のご理解、あたたかいご支援の
賜物と感謝を申し上げる次第です。

長男も次男も同じ高校で、周りから部活として
はよく存続しているなどと思われるくらい少人数
で三年間続けられたことは、保護者として学業の

成績はともあれ、なんともいえない喜びを感じて
おります。

「継続は力なり」そこで得るものは、継続して
取り組んだ者にしかわからない何かを得られるも
のと信じております。小さい頃から続けてきた柔
道が、本人にとつてなくてはならないものとなり、
今後の将来にも活かしていきたいと話す姿がわが
子ながら頼もしく感じている次第です。

弓道部で得たもの

弓道部 坂本 太智

男子団体決勝戦：四位。二年間、必死に追いか
けた夢が終わったとき、泣かないと決めていたが、
みんなへの感謝の気持ちと「ああ、終わったんだ
な。」という気持ちが込み上げてきて涙をこら
えられなかった。二年間の思いが涙とともにあふ
れ出た気がした。

思えば、入部したきっかけは、些細なことだっ
たが、この二年間の部活を通して、勉強、部活な
ど、何をしても中途半端だった自分が変わったと
思う。

それには部長を務めたことも大きく関わってい
ると思う。「部員をまとめなければいけない」と
いう重圧に負けそうになったことが何回もあった。
それでも切磋琢磨する仲間がいたからこそ毎日の
練習を頑張ることで乗り越えられた。そして毎日
の部活が本当に楽しかった。

最後の県総体、懸命に応援し、励ましあい、あ
きらめなかった。僕がここまで一生懸命になった、
というのはこれからの人生において自信になると

思う。これから僕達は新たな一歩を踏み出す。も
し、壁にぶち当たった時、この経験を思い出して
乗り越えて行きたい。

部活で得たもの

保護者 坂本 英治

息子は中学では野球部でしたが、試合ではベン
チを暖めるのみでした。中学校から野球を始めた
のは一人だけだったので、ある程度致し方ないこ
とでした。そんな彼が弓道部を選んだのは、弓道
ならば、同級生が同じスタートラインに立って始
められる、という理由もあったのかもしれませんが。
入部後は大変なのほせようで、自宅でもゴムを
引っ張ったり、竹を切っては的の指示具を作った
り、小遣いははたいて弓を買ったりといったぐあ
い。その甲斐あって試合にも出るようになり、そ
の上なんと部長を拜命し、県総体では個人戦の三
位に入るといふ、親としては驚きの結果を残すこ
とができました。弓道部は、かけがえのない高校生
活を充実したものにしてくれたようです。

山根先生、大内さんには、ふつつかな部長を指
導していただき本当にありがとうございます。

一日の大切さ

合唱部 井村 みのり

部活で得たと言うより学んだこと仲間のことや、
規律の大切さ、いかに歌で観客を感動させるのか、
など。でも、何よりも一日の、しかもほぼ二時間

半程度しかない限られた時間の中でどれだけ歌が上手くなれるのか、感動させることができるのか、悩み、考えることは尽きませんでした。そう毎日考えていく中で、私は一つ気づきました。『限られた時間を大切にすること。』可能な限り休まないことの理由はここにあるんだと思います。合唱なんかは特にそうですが、自分だけでなく仲間と一緒に音楽を創り上げていくもので、誰か一人でも休むといつものように歌えなくなり、逆に休んだ人も今日の練習で変わったことや学んだことが分からなくなってしまう。それに、毎日の練習を大切にすると部活こそ本番に強く、いい演奏ができるのだと思います。それが仲間の大切さにも繋がっていきます。そして今更になつてそれらが勉強や、普段の生活にも繋がるんだなと気づきました。

東高合唱部の一員であること

保護者 井村恵子

昨年の朝日コンクール中四国大会でのこと、東高の第一声を聴いて涙がこぼれてしまいました。わが子が出場したことに感動したせいなのか、いやそれだけではなく、確かにあのときのハーモニーの美しさに感動したのです。それまで『女声のメインは何といつてもソプラノかなあ』と誤解していた私は、『いや、メゾもアルトも響き合ったときこそソプラノも輝き、それぞれの声が溶け合つて一つの響きを作り上げることこそ素敵なんだ』と気づいたのでした。時には部の運営や定演の練習でもめたこともあったようですが、その出来事

の、一つ一つが今のまとまりの大切な糧になっていると思います。

感動は人の成長の原動力だと思っています。このように親子共に多くの感動を高校生活で与えてくださった先生方に深く感謝すると共に、わが子が東高合唱部の一員であったことに感謝しています。

部活を終えて

吹奏楽部 岡寺 瞳

私が部活で得たもの。正直、まだ気持ちの整理ができていないようで、自分が何をj得ることができたのか、たくさんあるはずなのにはっきりと言うことができません。ただ一つだけ言えることは、自分は本当にたくさんの人に支えられているんだということ。今までの私は、みんなのおかげ、というより自分のおかげで、という考えで、感謝の気持ちのかけらもなかった気がします。でも、吹奏楽部に入って、自分の不器用さや気持ちのなさを痛感し、同時にたくさんの方の支えに気づくことができました。おかげで、感謝という言葉の本当の意味がわかったような気がします。このように思えたのも吹奏楽部の仲間、家族、先生、友達、その他たくさんの方のおかげだと思います。本当にありがとうございます。



貴重な経験

保護者 岡寺 通裕

三年生になってからは、毎日くたくたになつて帰ってくる日が続き、夕食を食べながら寝そうになることもしばしばでした。自分の練習ではなく、部活の運営や練習、雰囲気づくりなど、大変だったようです。

コンクール前は、親として「体を壊さずに早く終わってほしい！」ただそれだけを願っていました。それほど憔悴していました。

コンクールが無事終わった時は、全身から力が抜けるようでした。三年間全力投球の部活、本当にお疲れさん。

「一人でできることは限られているけれど、仲間と力を合わせて何かを成し遂げた時の喜び・達成感は何倍にもなる」こんな貴重な経験ができた部活だったと思います。

すばらしい仲間たちと先生に感謝！感謝！

弦楽部部活を終えて

弦楽部 安部 朋子

私にとって部活をしていた二年間は、本当に充実したものでした。引退をした今振り返ってみると、楽しかった事や苦しかった事と共に、沢山得るモノがありました。

何といつても一番は、仲間と一緒に協力し頑張る事の大切さです。

私達には特に大きなコンクールなどはありません

ん。でも数少ない発表会ではいい演奏をする事を目標に毎日練習に励んでいました。その成果は結果として目にする事は出来ませんでした。私達が頑張ってきた日々は最高にいい時間だったと思います。定演の前の合奏が上手く行かなく苦しかった時も皆と一緒に音楽をする事の楽しさ、共に頑張ってきた日々は私の何よりの宝物です。頼りない部長で迷惑ばかりかけていましたが、副部長をはじめ皆にとっても支えられました。部活で得た物をこれからも大切にしていきたいと思っています。

部活を終えて

保護者 安部 進

中学校ではバレーボールに汗を流していた朋子、高校に入り弦楽部に入部したと聞き、遠距離で通学に長時間かかる中、これまでやったことも無い弦楽器など本当にやれるのだろうかかと心配したものでした。が、気がつけば、数多くの楽曲をこなす様になり、高総文祭を経験し、二年生からは部長として部をまとめ、この程無事に部活動を終えることになりました。

この期間、これまでクラシック音楽など接する機会など無かった私達もコンサート会場に足を運び、高校生たちが一生懸命演奏する弦楽やオーケストラの音楽を聴き、楽しい時間を過ごす事ができ、朋子には本当に感謝しています。

この三年間、ご指導いただいた先生方、支えてくださった弦楽部の皆さん、ほんとうにありがとうございました。

そして、よく頑張ったね。お疲れ様でした、朋子。

見ること

美術部 安部 のぞみ

絵を描くという点で学んだことは、対象をよく見るべし：ということでした。例えば、油絵を描く時に、対象である静物をじっくり見る事は必要不可欠なのですが、同じ静物でも、見れば見る程、自分の中の静物の存在感が変わってきます。

一枚の油絵でも、静物を何度も見ているうちに、途中で絵の雰囲気が変わることは、多々あります。また、静物から離れてみたり、上から覗いてみたり、少し目を細めたりすると、対象のまた違う表情を感じることが出来ます。

しかし、対象が静物ではなく：例えば社会問題、あるいはクラスの誰かであっても、その本質に近づけば近づく程、視点を変えれば変える程、対象の様々な面をより深く知ることが出来ます。

対象を見る、深く知る、見方を変える：という行為は、絵を描くことに留まらず、どんな事にも共通して重要な行為なのだ、と感じる今日この頃です。

得たもの

保護者 安部 太

絵を描きたいということで美術部に入りました。が、部長になったと聞き驚きました。どの世界でも人をまとめるということは難しいことです。きっと本人も苦労したのではないかと思えます。この貴重な経験をこれからの人生に生かし、がんばってほしいと思います。

あみだ部長

放送部 野島 理紗子

部長になったのは、驚く方も多いと思いますが、あみだくじでした。自分が部長に決まった時は、「無理だよ」と部員に言うほどの有様だったのに、部員のみんなは「大丈夫だよ、手伝うから」と暖かい言葉をくれたのを覚えています。

一つの作品を作り上げる大変さや、思ったように朗読ができなくて辛かったことも多かったけれど、それ以上に皆で味わった感動は多かったと思います。部活を引退する今、自信を持ってやり切れた！とは言えませんが、それはこれからの自分の課題にしたいと思います。

今の自分があるのは、いつも支えてくれた友達、部員、先生、OGの方々、家族のお陰です。三年間、本当にありがとうございました。

部員の皆、キャサリン、ミッシェル、フランソワ（青バトの方に頂いたヘチマです）をよろしくね。

我が道へのステップ

保護者 野島 智 香

希望に満ちた入学、不安と期待のスタートが、どのように高校生活を有意義に過ごしてくれるのだろうと思いつつ：兼部をした我が子に驚きを隠せず「文武両立」はむなしく、中途半端な気持ちでは出来ない兼部中止令。しかし思いは届かず、部活優先生活。

それだけの打ち込みを学習の方へ少しでも向けてくれたならと自問自答。親の方が不安な気持ちで過ごし、あつという間に三年間の部活を終了した。思えば、特殊な技術や知識を習得し、大勢の友とかかわり、部活でしか得られなかったものを吸収した。全国大会へも出場し、自他を知り、無力な自分とも向き合った。これもひとえに無償の力でご指導くださった先生方に感謝。人間形成に必要な要素を一つ一つ体積してくれたものだと思える。我が子が、この学び舎で成長した一つの成果を次に繋げて、今後も努力を忘れず、自分の道が広げられるようしっかりと歩んで欲しい。次に挑戦するジャンプがすばらしいものとなるように。

THANK YOU VERY MUCH

ESS部 万波彩乃

私は高校入学当初、将来、英語を使う仕事がしたいと思いつつも、伸び悩む英語の成績のために自信が持てず、夢を半ばあきらめていました。そんな時、顧問の先生に進められ、ある英語の暗唱スピーチコンテストに参加することにしました。B5の紙に一杯の英語を暗唱するのはそう楽なことではありませんでした。何度も何度も投げ出しなくなり、練習に付き合ってくれる友達や先生、親からの「大丈夫」という言葉が、私の力になりました。そして迎えた本番。プラバの大ホールから一人で見下ろした観客席。しかし、私は一人ではありません。

でした。多くの人に支えられていました。

ESSで活動した三年間と一緒に活動した仲間が私の大切な宝物です。英語は私にとって特別なものになりました。だから、やっぱり私は夢を追いかけてようと思います。最後に、今まで助けてくださったみなさん、本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

親として

保護者 万波 幸男

合格通知に飛び上がったあの日から、もう三年が経とうとしています。ESS部の活動は週一回でしたが、娘にとっては、とてもいい経験が出来たようです。特にコンテストが間近に迫った時などは、深夜まで練習している姿を見ると、英語を使わなくて久しい自分が、親として何もしてやれないもどかしさを感じました。少しでも何か力になろうと考え、送迎はしてやれましたが、実際は、遠くで見守ることしか出来なかったように思います。この三年間、娘を支えて下さった皆様、本当にありがとうございます。

書道を通して

書道部 後藤 知里

私は書道に出会えてよかったなと思ってます。小さい頃からいつの間にか始めていた習字が、高校で本格的にするようになり、今、書道は私の特技として私を支えてくれています。

私は人とのつきあいが苦手なのかもしれません。人に嫌われたくないって思いと自分をよく見せようと気を使つてか、二年時に、体調を崩すようになり、学校を休みがちになりました。

休んでも家族や友達や先生、いろんな人に迷惑をかけている気がするし、テストや課題はあるはで、なかなか悪循環な毎日から抜け出せずにいる。

そんな中、青天の霹靂が起りました。高校書道展に出した作品が全国高文祭の作品に選ばれたのです。

感動しました。本当に感動しました。

そのとき、辛いことの先には本当に喜びがあるんだなって身をもって経験しました。

それに周りのひとが支えてくれたおかげです。自分も苦しかったけれど、家族は私以上に心配してくれました。

「人事を尽くして天命を待つ」

一所懸命に自分のできる限りの努力をしたら、天が自分に合った結果をもたらしてくれる。

私はこの言葉を信じてこれからも頑張っていきたいと思えます。

部活で得たもの

保護者 後藤 義雄

この一年間、娘が書道部の部長として奮闘している姿を見ました。

なった当初は部長という立場に思い悩む姿を目の当たりにし、娘に部長という重責が務まるのか心配しておりました。実際に、人の上に立ち、責

任を負うということは思った以上につらかったように思いうけられました。

しかし、大好きな古道に真正面から向き合うことで、彼女自身、心身共に大きく成長した一年だったと思います。また、良い部員、指導者、顧問の先生方に支えられながら、部長の責任を全うしたことにより、人の上に立つことの大変さとその責任を全うした達成感を肌で感じた事により、人生における素晴らしい経験ができたと思っております。

たくさんの経験

JRC部 藤原 茜

私は一年生のときにJRC部のことを知り入部しました。最初の頃の部活では今までの生活の中では経験したことのないようなことばかりで何をしていたのか、どういう行動がJRCには必要なのか全くわかりませんでした。しかし活動をしていくうちにたくさんの人と触れ合い、人のために何かをする相手も自分も心が温まることを知り、すぐにJRCが好きになりました。

JRCは募金を中心に活動を行い、校内募金や街頭募金を行いました。街頭募金をしていると、お金を寄付してくださいる人はもちろん、差し入れに飲み物や食べ物をごさる人がたくさんいらっしゃって人の優しさに触れることができました。「がんばってね」の一言がとてもうれしかったです。普段ではできないような体験、感動をたくさん得ることができました。

もうひとつJRCで得たものがあります。活動

中に出会ったたくさんの人たちと一緒に活動してきた仲間です。楽しいことばかりではなく、悩んだりしたときもありましたが、みんなが活動したすべてが良い思い出です。たくさんの方に支えていただきJRCの活動を行うことができました。本当にありがとうございます。

貴重な体験を将来に生かして

保護者 藤原 砂代

子どもがJRC部に入部して二年半。「色々な思い出が詰まった活動だったのでは…」と感じています。アーチェリー部との両立で、本当に大丈夫か心配しましたが、本人なりによく頑張っていたと思います。

募金活動、二〇〇七高総文祭への手話コーラス参加、清掃ボランティアなど、家庭では絶対にやらないようなことを「自分からすすんでやった。」と自慢気に話してくれました。「やればできるじゃん！家でもやってよ。」と頼みましたが、残念ながら返事は……(>_<)

また、島根大学の「たんぼぼ祭り」では、障害のある子ども達とのふれあいを通じて、大変貴重な体験をしたようでした。

とかく、自分のことしか考えられない人間が増えていくこの時代に、JRC部での活動は、これからの人生に必ず役立つものと信じています。

部活で得たもの

文芸同好会 上代 有里花

去年、島根県で行われた高総文祭で俳句部門のスタッフになったことがきっかけで、私は俳句を作り始めました。そのときお世話になった俳句の先生が、「俳句はものを見て、観察して作る」と教えてくださいました。その言葉通り、ものをみて俳句を作るときを心掛けていたら、俳句を作るつもりのないときでも、自然とものを見るようになりました。今まで気にしていなかった植物やただの雨でも、改めて見てみると様々なことが感じられ、自分の感情や考え方が豊かになり、視野が広がったように思います。俳句を通して私は多くのものを楽しみ、学ぶことができました。一緒に俳句を作った先生方と俳句部門スタッフ、参加してくれた全国文芸部員の皆さんに感謝し、学んだことをこれからの私の人生に生かしていきたいです。

部活で得たもの

茶道同好会 森 田 朋恵

東高に入学して三年間がたとうとしています。東高に入学した時は、最初は部活をやるうなんて思っていませんでした。でも、一年生の時先生が「部活に入っていた方が大学受験で有利になる。」といわれたので、楽しそうな茶道同好会に入りました。

二年生の時は部員が一人だったので、部活動が

できませんでした。だから、他の運動部の人達のように三年間やりきったという達成感を味わえませんでした。

総体が終わった後の学年集会で、マネージャーさんが部活を終えた感想を泣きながら報告しているのがすごくかつこ良かったです。この三年間で、頑張ってきた人は頑張った分だけの実りがあることを痛感しました。大学に入ったら、自分が本当にやりたいと思える部活動を見つけて、今度は自分も頑張ろうと思います。

やればできる

調理同好会 山本 可菜恵

私は、調理同好会に入って多くの事を学ぶことが出来ました。予算内で買い物をする大変さ、また自分で作ったものを人に喜んでもらえる嬉しさを知り、料理をすることが楽しくなりました。

初めは、みんなから部長に推薦してもらって、みんなをまとめることができるだろうか？不安でいっぱいでした。買い出しなど大変なことはたくさんあったけどみんな協力してくれて、なんでもやればできるんだなと気づくことができました。こんな私にみんなついて来てくれてありがとうございます。本当に楽しい調理同好会でした。

今までやってきたことは絶対将来役に立つと思うので、これからも料理を続けていきたいと思えます。

子供の成長

おいしいハンバーガー

保護者 山本 孝子

調理同好会に入って、買い出しの準備や、次に調理するものをパソコンで調べたりと、楽しそうな姿が微笑ましかったです。作ったお菓子を持って帰って食べさせてくれたり夕食にハンバーガーを作ってくれて、母親よりも柔らかく上手にできるので大好評でした。

楽しい学生生活を送らせて頂き、感謝しています。ありがとうございました。

感謝の気持ち

女子ハンドボール同好会 久保田 恭子

私は女子ハンドボール同好会に所属しています。私が部活で得たものは「感謝の気持ち」です。

今私が部活をできるのは外部コーチや顧問の先生方やハンド部の仲間、いつも支えてくれる家族のおかげです。

外部コーチの森江さんは仕事が忙しいのに、毎日のように私達の練習を見に来てくださいます。顧問の先生方は大会のときに試合が終わったあとに必ずアドバイスをくださいます。

ハンド部の仲間は試合でミスしたときに励ましてくれたり、困ったときにいつも助けてくれます。家族はいつも支えてくれて、大会があるときは応援に来てくれます。

部活で得たものは他にもたくさんあるけど、私

にとって一番大きかったものは「感謝の気持ち」です。これからも「感謝の気持ち」を大事にしたいと思えます。

初の一勝を経験して

保護者 久保田 厚子

入学式の日にはハンドボールをすることを決め次の日から部活が始まりました。三年生が三人という事ですぐに六月の高校総体に出場しハンドボール女子で初めて一勝する事ができました。三年生と一年生とで本当に勝ちたいと一丸となり向い一勝できたと思います。本当に親子共々とても嬉しかったです。

一年生七人でスタートし、わが娘はゴールキーパーになりアザの毎日です。それでもいい仲間に恵まれ毎日楽しいようです。あと二年ありますので総体で優勝するという目標に向かって体力、精神力を鍛えみんなで力を合わせ頑張ってほしいと思います。



平成20年度(第46回)県高校総体結果一覽

	本年度	順位	得点	順位
男子総合	52点	10位	59点	12位
女子総合	25点	18位	53点	6位
男女総合	77点	14位	112点	7位

【各部結果】

陸上競技部

男子	100 m：井上立也	準決勝7位
	200 m：井上立也	準決勝7位
	800 m：予選敗退	
	1500 m：予選敗退	
	3000 m：予選敗退	
	110 m H：予選敗退	
	走幅跳：予選敗退	
	4×100 m R：予選敗退	
	4×400 m R：予選敗退	
女子	100 m：予選敗退	
	200 m：予選敗退	
	やり投げ：山田佳苗	決勝8位

柔道

団体	男子一回戦	0対4	三刀屋敗者復活戦
		3対2	川本
個人	男子	豊島創太	3位
		0対5	益田東

剣道

団体	男子	一回戦	4対1	松江高専
		二回戦	2対1	大東
		三回戦	2対1	出雲工
		準決勝	0対4	大社 ※ベスト4
女子	一回戦	3対2	松江農	
	二回戦	1対4	大社	
個人	男子	浜田翔太	(ベスト16)	
	女子	初戦敗退		

弓道

団体	男子	4位	
女子	予選敗退	(9位)	
個人	男子	長澤 純	2位(インターハイ出場)
		坂本太智	3位
		小田智也・木佐優太・前川 猛	(3回戦進出)

サッカー

団体	男子	一回戦	4対1	江津工
		二回戦	0対1	松江南

アーチエリー

団体	男子	1位	
女子	1位(いずれもインターハイ出場)		
個人	男子	伊藤壮太郎	1位
		中尾史絵	1位
女子		杉谷文香	2位
		中島ちひろ	3位

バレーボール

男子	一回戦	2対1	江津工
	二回戦	0対2	情報科学
女子	一回戦	2対0	松江市女
	二回戦	2対0	松江高専
	三回戦	0対2	安来 ※5位

水泳

男子	100 m	バタフライ	
	200 m	自由形	三代宗雄
	100 m	背泳ぎ	松本つばさ
	200 m	背泳ぎ	松本つばさ
女子	100 m	背泳ぎ	松本つばさ
	200 m	背泳ぎ	松本つばさ

バドミントン

団体 女子 一回戦 1対3 松江北
 個人 女子 シングルス 中山澄香(ベスト32)

山本真奈美(ベスト32)
 福田 楓(ベスト32)
 ダブルス 中山・永野組(ベスト16)

ソフトテニス

団体 男子 一回戦 0対3 高専

女子 一回戦 2対1 大東
 2回戦 1対2 松江西
 個人 男子 荒川・荒木組 3回戦進出
 女子 福山・金山組 3回戦進出

ハンドボール

男子 一回戦 32対10 浜田水産

準決勝 23対28 江津
 3位決定戦 21対23 飯南
 ※総合4位
 女子 一回戦 27対11 浜田商業
 準決勝 9対30 江津
 3位決定戦 11対13 松江南
 ※総合4位

テニス

団体 男子 二回戦 1対2 平田

女子 一回戦 2対1 松江高専
 二回戦 1対2 大社
 個人 男子 W 櫻井・錦織、石川・藤井
 (ベスト16)

卓球

団体 男子 二回戦 0対3 平田

女子 二回戦 3対1 津和野
 三回戦 2対3 松江北
 ※ベスト8
 個人 三回戦までで敗退

野球部

平成20年度東部地区予選 7対0 松江北

春季県大会 2対6 邇摩
 選手権2回戦 13対3 松江高専
 選手権3回戦 1対2 出雲西
 平成20年度島根県高等学校秋季野球大会
 一次 10対2 松江南
 二次 0対5 出雲工業

ボート

男子 クオドルプル 原田・田村・加藤・井川・

船越 3位
 Wスカル 永井・村田 3位
 Sスカル 瀬尾優勝
 (インターハイ出場)

バスケット

男子 二回戦 96対43 大田

三回戦 95対46 大社
 準々決勝 79対59 出雲
 準決勝 65対75 松江工
 ※第3位
 女子 二回戦 81対42 出雲商
 準々決勝 61対63 出雲
 ※ベスト8

女子 Wスカル

星野 4位
 平塚・内田 優勝
 (インターハイ出場)
 長見・三谷 3位
 林 優勝
 Sスカル (インターハイ出場)
 三島 3位



新任教職員

自己紹介



教頭

三上 昭 憲

今春、高校教育課から赴任してきました。四年ぶりの学校現場ということ、東高は初めて勤務するという事で四月当初は緊張の連続でしたが、五か月が過ぎ、少しではありますが東高のリズムに慣れようとしているところです。

東高には長女・長男がお世話になり、何回か面談等でおじゃましましたことがあります。生徒諸君は素直であり、挨拶がよくできるなどという印象があり、そのとき以来東高に対して好感を持っていました。

松江市の普通高校の中では一番若い学校であり、いろんな可能性を秘めています。今後もSSH事業をはじめとする特色ある教育を実践することによって東高らしさを出していければと思っております。微力ではありますが精一杯頑張りますので、どうかよろしくお願い致します。



国語 13 R

サッカー・陸上部

山内 竜 夫

今春の人事異動で松江東高校に赴任してきました。一年生二三七名をはじめとする素敵な生徒との出会い、すばらしい先生方との出会い、多くの保護者さんとの出会いによって、早くもいろいろなことを学ばせて貰っています。三月までの三年間、高等学校人権同和教育専任教員として、学ばせて貰ったことも併せて、松江東高校の生徒一人一人のために、自分がなすべきことを、しっかりと見つけてゆきたいと思っています。よろしくお願い致します。



地歴・公民科 一年学年付

弦楽部

竹下 聡 美

松江北高校より着任しました。教員生活は二年目ですので、まだまだ毎日が新しいことの連続です。授業は地理を中心に担当し、弦楽部の顧問を務めさせていただいております。一瞬一瞬に様々な表情をみせる生徒たちに驚かされながらも、背中を押してもらって毎日過ごしています。授業も部活も主役は生徒。脇役に徹しつつ、陰ながら支えてやれるよう努めていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。



数学 一年学年付

陸上部

板倉 史 枝

二期期より松江東高校に着任いたしました。着任したてでとまどうことも多いですが、元気な生徒たちと優しい先生方に囲まれて、なんとか日々を過ごしております。

縁あって東高にこさせていただき、今このときの生徒たちと出会うことができました。その縁を大切にしていきたいと思っております。生徒のみなさんの高校生活が充実したものとなるよう、微力ですが精一杯頑張ります。どうぞよろしく願います。



理科・生物 22 R 副担任

野球部

山名 裕 之

松江市立女子高校から赴任いたしました。現在、長女が本校の三年生に在学していますので、親子でお世話になっています。生徒諸君の中には長女の保育園・小学校からの友達がたくさんいます。過ぎてしまえばアツという間の高校三年間ですが、その後の人生には大きな三年間だと思えます。何かお役に立てればと思っておりますが逆に勉強・部活動にがんばる生徒諸君の姿に励まされながらの毎日です。



理科・生物 二年学年付
書道部

向井 淑子

松江北高通信制から来ました。

毎日、生徒の皆さんの元気で明るいパワーをもらっています。SSH校ということで、珍しい授業・講演等があり、新鮮な驚きの連続です。よろしくお願いいたします。



保健体育 14R
女子バスケットボール部

橋本 恵一

この度の異動で、益田工業高校からやってまいりました。14Rの担任を拝命し、分掌は総務部、部活動はバスケットボール部(女子)を担当させていただきます。まだまだ慣れないことも多く、他の先生方にお世話になりっぱなしで申し訳なく思っております。

本校は、私の母校で第十五期の卒業生になります。私が生徒の頃に在籍しておられた先生方にしていただいたように、生徒たちの支えとなり、自己実現の手助けをしていきたいと思っています。

日々の授業・勉強、クラスでの生活、部活動、学校行事、その一つ一つの中でたくさん経験をし、時にはぶつかりあったり、辛かったり、そしてまた時には楽しいことも……生徒たちと同じ時

間を過ごす中で、自分自身の高校生の頃を折に触れて思い出します。当時の熱い気持ちに負けないように、そしてまた松江東高校へ寄せられる期待や要望、生徒たちの思いに応えられるように、頑張っていきます。

これから、よろしくお願いいたします。



美術
11R副担任

竹田 茂

東高に勤務し始めて早くも半年が経ちました。赴任当初はなんて忙しい学校だろうと思いましたが、やっと少しだけ東高のリズムに慣れてきたような気がします。私が東高に慣れてくるに従って、廊下ですれ違う時など生徒の皆さんも挨拶をしてくれるようになりました。本当は、最初からずっと私に声をかけてくれていたのですが、耳に入る余裕が私になかったのでしょうか。すみません。今はとても気持ちよく感じています。

一つだけ、生徒のみなさんをお願いしたいことがあります。それは、十年後の自分の姿を想像して欲しいのです。その次は二十年後です。その未来の自分の姿を目標にしながら、高校生活を送れる最高だと思えます。



英語科12R
テニス部

児玉 斉

この春の異動で出雲商業高校から来ました。普通高校、松江勤務は四年ぶりです。

半年を過ぎてやっと東高のペースにも慣れてきた感じです。試験作成、採点、授業研究等々で追いまくられるのは普通高教員の常ですが、東高は特に忙しい感があります。でも、生徒諸君もよく頑張っているし、私も負けずに老骨に鞭打って精一杯努力して行こうと思います。どうかよろしくお願いいたします。



英語科15R副担任
バドミントン部

柳楽 朝美

平田高校からまいりました。東高のような大規模な進学校での勤務は初めてですので、気を引きしめています。バドミントン部の顧問をさせていただきます。いただいたことで、授業以外での生徒たちの個性や能力を見ることができ、今までと違った感覚で学校生活を送ることができています。忙しいながらも、明るく素直な生徒たちとともに楽しく過ごしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



A L T
Tiffany Fudge
ティファニー・ファッジ

私はティファニー・ファッジといいます。カナダのノーバス・スコシヤから外国語指導助手としてやって来ました。

大学生のころから日本で教えてみたい願望が芽生えてきました。カナダに来ていた日本人留学生や、日本で英語を教えていた友人たちを見て、そう思うようになりました。みなさんの国についていろいろ教えてください。

日本訪問だけでなく、飛行機の旅も初めてでした。松江市の人たちに出会ってとても嬉しいですよ。私の夢が叶いました。

今、日本で素晴らしい時間を過ごしています。日本の人たちは、とても親切で礼儀正しいですね。食べ物はおいしいし、お祭りは楽しいし。日本にいる間、日本語を勉強し、伝統文化に触れながら、多くのことを学んでいきたいと思っています。

松江東高校で教えるのを楽しみにして来ました。いろんな経験をしていきたいと思えます。みなさん、私に気楽に話しかけてください。よろしくお願ひします。



家庭科 一年学年付
調理
稲場 道子

今春、松江商業高校から赴任してきました。久々の異動なので、何かと戸惑うことが多く、変化に対応していけるよう懸命の毎日です。

生徒の皆さんがとても落ち着いているというのが四月当初の印象でしたが、今も同じくです。家庭科で学んだことを、将来生活の主体者となったとき、大いに役に立ててくれるようにと願っています。よろしくお願ひします。



養護 二年学年付
新聞
佐々木 久美子

この春、松江農林高校より参りました。これまで、幼・小・中・高校と全て勤務経験があります。講師という立場だからこそ、こんな貴重な経験ができたことに「幸せ」を感じています。振り返ると我が子の成長と共に勤務校が変わってきていることに気づきました。無意識に自分で選択していたのでしょうか。高校は、松江南高、松江農林高とここ松江東高が三校目となります。

保健室は、学校の中では異界の場です。日々、勉強に部活動に頑張っている生徒たちを、この場から支えつつ、本来の場で本領発揮できるように応援し続けたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。



事務長
北村 正志

四月の定期人事異動で、県庁の出納局会計課から赴任してきました。三十数年の勤務経験の中で約二十年は県庁で過ごしてきました。以前の仕事は出納監察スタッフとして、会計事務の指導、地方機関の会計検査等を行っていました。

学校現場の経験は初めてですが、仕事に対する熱い気持ちだけは持っているつもりです。そして、事務室には他に個性的で経験豊富な五人のスタッフがおります。日夜、生徒のために奮闘しておられる先生方を事務室全員で全力で支え、教育環境の整備に努めていきたいと考えていますのでよろしくお願ひします。



主任校務技術員
金山 正和

学校職場に居ない出雲市民だった頃、松江東高と聞くと、「甲子園に出たがあ」「バスケットの強化指定校」「進学校でしょ」の知識でした。それが今春からは、新聞の記事を探し一喜一憂。野球が勝った、負けた。合唱部が金賞だ。飛び込み国体入賞か。S S T I ? ; 等々に、約変しました。

ご挨拶が遅くなりました。四月から、事務部に勤務しております『かなやま まさかず』と申します。毎日、勉強・部活に一生懸命に励んでおられる生徒さん、サポートされている凄いパワーの先生方と一緒に、仕事を楽しみたいと思います。よろしくお願ひします。

PTA会務報告

平成二十年度（平成二十年 四月 一日から

十月三十一日まで）

総会報告

十、平成20年度PTA各地区支部総会

城東・川津、市内通学区外、隠岐（7/21）

安来、西津田・東津田（7/26）

朝酌（7/28）

竹矢、島根野波（7/29）

持田、美保関（7/30）

本庄、八束（7/31）

(1) 学校近況報告

① 学習指導 ② 生活指導

③ 進路指導 ④ SSH

(2) 意見交換

(3) 学年別懇談

(4) 次年度役員選出

十一、第58回全国高校PTA連合会大会

愛知大会（8/22～23）

十二、平成20年度ガーデニング講習会（8/23）

十三、東雲祭 文化の部（8/28～30）

ガーデニング作品展示

十四、平成20年度第2回高P連評議委員会

安全互助会理事会（9/6）

(1) 平成19年度末松江東高校人事異動

(2) 教育方針・教育目標

(3) 平成20年度校務分掌・学年の重点目標

(4) 校務分掌等教員配置

(5) 学級担任

(6) 平成19年度生徒実績報告（部活動・進路）

(7) スーパーサイエンス事業

生徒活動後援会総会議事

(1) 平成19年度生徒活動後援会会計決算

(2) 平成20年度生徒活動後援会役員選出

(3) 新旧役員挨拶

(4) 平成20年度生徒活動後援会会計予算

四、PTA進路指導委員会（5/10）

五、第1回評議委員会・安全互助理事会（5/17）

六、平成20年度県高P連総会（6/7）

七、第1回保護者面談（全学年）（6/9～11）

八、平成20年度第2回PTA役員会・生徒指導委

員会・研修委員会・広報委員会（6/21）

(1) 学校近況報告

(2) 本年度のPTAの活動について

(3) 意見交換

九、第49回中四国高校PTA連合会大会

山口大会（7/11）

総会議事

(1) 平成19年度会務報告

(2) 平成19年度学校徴収金諸会計決算

① PTA

② 記念事業

③ 施設充実費

④ 進路指導費

⑤ 生徒会

⑥ 部活動振興費・学級費

(3) 平成20年度PTA役員選出

(4) 新旧役員挨拶

(5) 平成20年度事業計画

(6) 平成20年度学校徴収金諸会計予算



編集後記

P T A 会報「高山」第四十九号を皆様にお届けします。

さて、暑い夏とともに多くの感動をもらった北京オリンピックもあつという間に過ぎ去ってしまいました。華やかな表舞台の後ろには四年間という長い時間が流れていて、時には自分を見失いそうになりながら、時には人に手を引かれ一筋の光を見つけて、また走り出す……。

金メダルはこの自分との戦いに勝利した者に授けられるもの、何やら高校生活に通ずるものがあるような気がします。

広報部 橋本 英子

長男が今年入学し、P T A 会報「高山」の発行に携わらせて戴くことになりました。

部活動におきましては三年生が引退して新チーム及び新メンバーでのスタートを切った部が大半だと思えます。三年生は進学を目指して受験モードに突入していることと思います。二期の初めには各地で集中豪雨が続いていましたが、本校で学園祭が天候に左右されることなく無事終了したことを喜ばしく思っています。三年生は残された

東高での学園生活を楽しい思い出にして戴き、一、二年生は先輩達の残した伝統を受け継ぎ栄えある東高にして戴きたいと思えます。

最後になりましたが、会報発行にあたり寄稿して戴きました皆様、誠に有難うございました。P T A 会員の皆様並びに学校関係者の、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

広報部 足立 俊策

今回の特集は「部活動で得たもの」ということで、運動部、文化部、同好会に関わる皆様から原稿をいただきました。小学校の頃から続けてきた種目、高校生になって新たにチャレンジした種目がいろいろあると思います。

目標が達成できた者もそうでない者もいると思いますがこの三年間、目標に向かって努力してきた過程は新たなスタートを切ったときに、必ず励みとなって返ってくるでしょう。そしてその活動を陰ながら支えてこられた保護者の皆様、お疲れ様でした。これからも皆さんと共に成長し続ける子供たちを応援していきたいと思えます。

最後になりましたが、お忙しい中、会報の原稿にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

広報部 土江 俊策





〈表紙の絵〉竹田 茂(本校教員)

〈題 字〉

P T A 会報 森脇 哲朗(旧本校教員)

高山 上田久美子(十三期生保護者)